



KENMEI ACADEMY

2014年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

I 平成26年度 自己評価の結果について

学校法人賢明学院
賢明学院幼稚園

1, 本園の教育目標

カトリック精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

2, 本年度, 重点的に取り組む目標・計画

子どもの自主・自立・自律の精神を育成するために自由な環境を整え、自ら選び、繰り返し、集中し、満足感・達成感を味わう保育を実践することで、心身の調和のとれた人間に自ら成長していけるように援助する。

3, 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
① 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、振り返りを行い教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・子どもが自分で考え行動していけるように、働きかけることを日常の保育の中に取り入れた。・園の行事一つひとつを目標達成のための明確なねらいを持って進めた。・英語の会話力を高めるために、毎日ネイティブ教員によるレッスンを実施した。その結果子どもたちが正しい発音が出来るようになった。・保育後の振り返りの時間をもち、日々の反省と子ども一人ひとりの観察結果を全教職員が共有し、共通理解することで、より細やかで質の高い保育ができるように努めている。
② 保育の在り方, 園児への対応 安全管理の徹底, 園児理解の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">・子どもたちは、満足感や達成感を持つ内容や度合いが一人ひとり異なることをよく理解して子どもたちと関わっている。また、カトリック精神に基づき、一人ひとりが神と人ともに愛される存在であることを実感し、命の尊さを知るように育てる。・子どもが自主的に活動できるよう、援助している。・縦割りクラス活動を通して、異年齢児との関わりを持たせることで、思いやりの心を育てている。

<p>③ 保育者としての資質 保育専門家としての能力，姿勢，責任等資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自立をめざす教育の基盤を固めるため，年間を通して教職員研修を行うことによって，教職員の資質の向上を図っている。 ・教職員が，ひとつのチームであることを意識して，子どもたちのささやかな成長を共に喜ぶことができるよう，研修会等によって意識改革を図っている。
<p>④ 保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども同士のトラブルで不安を抱いている保護者に対しては，十分に時間を費やし丁寧に対応している。 ・子どもの教育的効果をより高めるため，それぞれが目標達成のためのねらいを持つ園の行事について，保護者との共通理解をより深めるため，発信する情報をさらに充実させていく。 ・園だより，個人の記録，学年だよりを通して保護者に子どもの成長を具体的に伝える。
<p>⑤ 地域社会との連携 地域社会との関わり及び小学校との連携を図り，地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスは，母子分離・親子教室と2分化しそれぞれの目的を持ち充実を図っている。 ・進学先の小学校と，連絡を取り合い卒園児が安心して学校生活を送れるようにする。 ・子どもたちとともに地域の老人ホームを訪問し，身近に接することによって，優しさやいたわりの心を育てる。 ・園庭開放を行い，地域の方との連携・連帯を深めている。
<p>⑥ 環境について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に，整理・整頓・清潔を意識し，保育室の整備・自然環境を整備するなど，教育環境の充実を図っている。 ・季節に合った植物を育てることによって，季節を感じ自然に親しむ心を育てている。 ・子どもを見る目を養っている教職員が，人的環境として配置されている。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校評価を行うために行った保護者へのアンケートでは、ほぼすべての項目において良い評価をいただいた。教職員一人ひとりが、自己評価・学校評価の趣旨を理解し、客観的な目で自らの教育、保育を振り返ることができたと思う。好評に甘んじることなく、今後も、さらに充実した教育・保育活動ができるように、努力をしていきたい。

今年度の重点目標を達成するため、教職員は一人ひとりの子どもに向き合い、子どもたち一人ひとりの個性を大切にし、子どもたちが愛されていることを実感できるように心を掛けて接するようになってきた。これからも今まで以上に、日々の保育のなかで、何気ない言葉で相手を傷つけていないか、押さえつける保育をしていないか、ひとりの子どもの背景までみとることができているのか、いつも振り返り、子どもの個性・資質を伸ばす保育を心がけたい。また、子どもの個性・資質を保護者と共有し常に園と家庭が一体となり、同じ方向性に向かって教育していくことが大切であると意識している。

5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主・自立・自律ができるよう 子どもたち一人ひとりの丁寧に観察し適切な援助をする。	一人ひとりの発達段階に応じて、興味の持ち方、達成の度合いを見極め、満足感を得ることができるよう導く。
祈る心を大切にする。	貧しい人・困っている人・弱い立場にいる人たちに心を向けることができるよう導く。 おつけものデーの取組みを、子どもだけではなく保護者にも理解してもらおうよう努力する。
グローバル教育の充実。	毎日ネイティブ教員による英語レッスンを実施し、英語を通して、世界に目を向ける機会を与える。
発信力を高める。	日々の保育の様子や行事、園の方針・考え方、また保護者が知りたい情報を迅速且つ工夫を凝らして発信できるよう心掛ける。

6 学校関係者の評価

別添資料参照（資料Ⅳ）

7 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がなされていると認められている。

II 2014年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院小学校

評価責任者：校長 篠原康二

	P l a n		D o	C h e c k	A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：アンケート結果／関係者評価	◆今後の改善方策
①	<p>「こころを育てる教育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祈りを大切にす。 ・学校生活の基礎基本を学ばせる。 ・友達との関係を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整理整頓をしている。 ・掃除を黙って熱心している。 ・挨拶や礼を自分から進んです。 ・友達と仲良くできている。 ・学校が好きだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Monday Assembly (祈りの集い) を始めた。 ・聖歌練習の指導に力をいれた。 ・宗教の授業で,低学年 (1～4年生) においては,「命の大切さ」,高学年 (5～6年生) においては,「性差」の単元を設け,指導を行った。 ・通学マナー向上をめざし,取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祈りの姿勢,聞く姿勢がよくなった。 ・学んだ内容を理解し,実践する姿勢が見られる。 ・他者の意見,価値観を尊重し,協力することの大切さを理解するようになったが,それを実行するための取組みが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスが学校目標を達成のための取組みを強化する。(クラスで評価指標を作成する) ・「役割」と「責任」の自覚を促す自主的活動を導入する。 ・校外学習,宗教行事における縦割り指導を導入する。 ・低学年には読み聞かせによる読書教育を推進する。
②	<p>「学級活動の活性化」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年,学級経営プランのより充実化と学年の連携を密にする。 ・宗教科と担任との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教行事に自ら進んで取り組む。 ・お祈りを心を落ち着けて唱える。 ・自ら進んで良い事をする。 ・神様についてのお話を熱心に聞く。 ・そうじを黙って熱心している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会議の見直しとケース会議との連携を図った。 ・児童会活動の活性化を活性化させるため,子どもたちに対し,児童会活動への意識の高揚を図った。 ・学校目標を達成するため,学年,クラスでの取組み計画を立てて実践した。 ・創立60周年記念作文コンクールを実施し,自分たちの学校生活について考えさせた。 ・学校目標を達成するため宗教科教員と連携し,学校生活について考えさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に関する観察力や生活面の指導力を高める努力が求められる。 ・状況に応じた児童への声掛け,励ましが十分できているとは言えない部分もあった。 ・児童の積極性や発想を引き出す指導が,一層求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会の主体性を重んじ,活動を推進していく。 ・学級経営計画を見直し,修正を適宜に行う。 ア) 月間目標を設定し,達成度を確認する。 イ) 学年会議による学期ごとの検証 ・生活指導で発生する事案について,情報を共有し初期対応を大切にす
③	<p>「教師力の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力を高めるための取組みを継続させる。 ・生活指導について積極的に学び合う。 ・情報端末を駆使した授業展開を研究する。 ・学級懇談会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は,落ち着いて学習に取り組むことができる。 ・授業は充実してて先生の話はわかりやすい。 ・タブレット端末や電子黒板を使用した授業はわかり易い。 ・児童のノートを丁寧に検閲し,的確な指導を行い,児童との信頼を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の推進を図る。 学内研修,学級経営,人権研修,情報教育の企画立案 ・ICT教育に関する研究 ア) 研修会への参加 イ) 「研究のまとめ」を発刊 ウ) 実践校との情報交換を行い,応用を考える。 ・授業参観及び保護者懇談会の実施回数を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを導入した授業全体の理解度はあがったが,協働学習や個別指導への対応が十分とは言えない。 ・保護者のニーズに応じた情報を発信する必要がある。 ・授業力向上のための教科研究を更に充実させる。 ・公共の場でのマナー教育や安全教育に力をいれなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の満足度を上げる創意工夫と指導教官による授業チェックと反省 ・保護者会,懇談会の内容を充実させる。 ・学校便り,学級通信の内容を吟味し,明確に伝える努力をする。 ・幼稚園,中学校との協力体制を整え,相互の交流を深める。
④	<p>「語学教育の充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に備えた英語力を身に着ける。 ・イメージ教育導入の準備を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は落ち着いて授業に取り組む事が出来る。 ・授業は充実してて先生の説明は分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導教材と年間カリキュラムの刷新 ・英語レシテーションコンテストの充実 ・海外オーストラリア教育連携校との相互交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観授業の充実,保護者の反応が良かった。 ・新カリキュラムに対して,保護者からいい評価を得ている。 ・海外交流校の児童との学習や体験は,英語へのモチベーションを高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童英語の教授法の研究会開催を推進する。 ・タブレット端末の活用をテーマとした英語学習への応用と研究を進める。

	Plan ◆最重点目標	Do ◆評価指標 目標達成のための具体的な指導取組み	Check ◆自己診断 別紙：関係者評価	Action ◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、「宗教教育」による「こころの教育」の推進	<p>建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている</p> <p>人権を配慮した行動をもとに指導している</p> <p>学校カウンセラー等保護者や生徒への心のケアに配慮している</p> <p>生き方を教え豊かな心を持った生徒を育てようとしている</p> <p>学校には悩み事などの相談にのってくれる友だちや先生がいる</p> <p>学校生活は楽しく有意義で満足している</p> <p>学校は良い友人関係を築く良い場になっている</p> <p>生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている</p>	<p>・キリスト教的価値観に基づく建学の精神や教育方針について保護者の理解度は今年も高い。</p> <p>・高校では「良い」の評価が94%、中学は88%で高学年ほど高い数値となっている。高校は3ヶ年間で最も高い評価となった。保護者の皆様の学校への教育的関心も高く、学校へ来る機会の多さについても、この3ヶ年で最も高く92%となっている。</p>	<p>・保護者からの90%を超える評価は、本学院の教育理念が理解され、本校の教育が熱望され期待される数値である。教員は保護者の大きな信頼を力として、お預かりした生徒を伸ばすべく努力し、生徒への愛情と思いやりにより、生徒及び保護者の満足度を高めることに専心する。</p> <p>・教員である前に一人の人間として、常に生徒とともに成長する賢明学院の教員として、生徒たちの手本となるべく、さらなる研鑽を命じる。</p> <p>・宗教教育は本校の教育の特色であり、畏敬の心・こころの教育の実践により一層尽力する。</p>
2	<p>組織的な新教育体制の構築</p> <p>・賢明学院の不易を生かす新教育を上げる教員意識と意欲の結集</p> <p>・生徒を大切にする「細やかな丁寧で温かな」指導の実践</p> <p>・「生徒・保護者との定期的懇談会」の実施などによる教育の実践</p>	<p>保護者が学校へ行事・参観授業等で来る機会をよく設けている</p> <p>保護者からの相談連絡に教員は親切に対応している</p> <p>学校は生徒の安全確保や事故防止に配慮・留意している</p> <p>学年内のコミュニケーションをはかり教員間の問題解決に努力している</p> <p>教育内容や教育活動を保護者に情報発信している</p> <p>学校の雰囲気が良く子どもが生き生きしている</p>	<p>・「保護者からの相談や連絡に適切に対応する」項目で、中学では昨年より少し下がり84%となったものの、高校では88%と上昇。特に高校Ⅲ年92%、中学2年90%と「良い」の評価となり、この3年間、賢明学院が「保護者との連携」を最重点目標として取り組んできた成果が表れたものと考え。保護者の皆様の本学の教育に対する理解も高まり、熱心に取り組む教員の姿勢や指導力への信頼が少しずつ深まってきた事の表れであろうと考える。</p> <p>・参観授業や体育大会等の学校行事に高い興味や関心を持って頂き、中学高校共に高評価となった</p> <p>・「生徒の安全や事故防止に配慮している」は、90%以上が「良い」と、3年間で最高評価であった。</p> <p>・「施設・設備の整備及び学習環境への満足」は、中学・高校ともに昨年を上回る高い評価となった。これらは、学校での様子や雰囲気そしてご家庭での生徒たちの過ごし方を物語っている。</p> <p>・「子どもが生き生きしている」の評価は、3カ年間で最も高く、中学で85%、高校で88%となった。</p> <p>・学校は子どもたちの安心安全・安らぎの場となり、良き学習環境を整えた素敵な学習のコミュニティとなっていると考える。</p>	<p>・保護者の信頼は、教科指導に始まる。教員が保護者と連携を図りながら、きめ細やかな教科指導の実践が、保護者からも熱意ある指導として理解され、信頼となりつつある。</p> <p>・情報発信においても、学校通信『ブリテン』を定期的発行することにより、教育内容の理解と信頼に繋がりがつつある。</p> <p>・保護者集会や参観授業等の学校行事に関しては、実施日時を工夫するなど、より多くの保護者に参加いただけるよう見直しを進め、本校の取り組みに対してより一層理解が深まるように努めたい。</p>
3	<p>学習・授業を第一とし教科力アップを図る</p>	<p>学習内容が分かりやすく楽しい授業である</p> <p>施設設備が整理され学習環境に満足である</p> <p>チャイムと共に授業が開始されている</p> <p>分かりやすい授業のための授業で工夫が見られる</p> <p>授業から教員の指導上の熱意が感じられる</p> <p>生徒は授業に集中し意欲的に取り組み内容を理解しようと努めている</p> <p>生徒は宿題課題にまじめに取り組み提出期限を守っている</p> <p>学習指導計画を作成し適切に実施している</p> <p>学習意欲を喚起し生徒の能力を考えた指導をしている</p>	<p>・「分かる授業」の取り組みは、生徒の学習意欲を高め、自学自習の習慣を育み自らを伸ばすことを喜びとする点で、最重要課題である。</p> <p>・「わかりやすく楽しい授業」に関する保護者評価が、高校では3ヶ年でも最も高い評価となった。</p> <p>・「授業開始時のチャイム着席」に関する生徒評価は、中学で昨年度より少し改善したがまだまだ低い。高校は76%と中学よりは高い評価であるが、時間のルーズさは改善の余地が残る。</p> <p>・「配布プリントや教材が授業理解に役立っているか」について生徒評価は、中学でやや低下し、85%が「良い」の評価で、高校では83%と3ヶ年でも最も高い評価となった。この点で、教員評価は、学習指導の「分かる授業」のための「授業の工夫」への取り組みと、生徒の理解度なども踏まえた家庭学習に役立つ課題付与など、教科指導力を磨き教員としてのプロ意識に徹する意欲が見えつつあることともリンクしていると考え。さらに板書やまとめ方・重要点の強調・進め方の工夫なども、生徒評価では中学・高校とも80%以上が「良い」と評価。</p> <p>・「意欲的な取り組み・内容理解への努力」の生徒評価では、昨年度と比較して、中学61%→73%、高校76%→81%と「良い」の評価が上昇、生徒の意欲の向上、提出物や予習・復習・家庭学習などの取り組みにも良い方向への変化が見えた。模擬試験での偏差値アップにもつながり、教員の授業への工夫や取り組みの姿勢の向上がよい結果をもたらしているといえる。</p> <p>・「授業内容の定着に役立つ情報や課題の付与」への生徒評価では、中学で90%、高校で88%が「良い」の評価、教員の教科指導力の向上が定着しつつあると考えられるが、より高評価を目指したい。</p> <p>・「授業から先生の熱意が伝わるか」の項目では、高校では「良い」が70%と昨年並みであるが、中学の評価が下がり、より一層の研鑽が必要である。</p>	<p>・教員が教えることの楽しみや面白さに目覚め、生徒と一緒に理解し生徒とともに伸びる喜びが芽生えることが、教材研究への大きな励みとなり、教科指導力の向上のための意欲となりつつある。</p> <p>・教員には、常に分かりやすい授業を行うための研鑽と教材研究が必要である。何よりも「教えること」を第一義として、毎日の授業が勝負の場であることを認識し生きがいとしてほしい。</p> <p>・日常活動が慌ただしく時間がないということは事実としてあるが、生徒が「分かる」表情を見せることが楽しみとなれば、教員の冥利に尽きるものである。</p> <p>・生徒の将来のために、ともに歩む教員として、生徒を伸ばすことを楽しみとして、意欲ある指導姿勢を強化する。</p>

	◆最重点目標	◆評価指標 目標達成のための具体的な指導取組み	◆自己診断 別紙：関係者評価	◆今後の改善方策
4	進路実績と進路保障 ・模試データから成績の伸びを検証する ・大学入試の結果を出す	進路指導の情報（学校見学・進路資料）を適切に行っている 進路指導において家庭への連絡や意思の疎通をきめ細かくしている 授業が大学進学や高校進学に役立つ 学校では生き方や進路について考える機会がある 適切な評価を行い指導結果について検証・改善に努めている	・「授業が大学進学や高校進学に対応できる学力に結びつくか」の評価は、学力アップを最重要課題として取り組んできた3ヶ年の成果を示すものであり、教科指導の面で評価が向上したことを示し、教員の授業への意識の高まりもあって、中高とも昨年度より高い評価となった。 ・「生き方や将来の進路を考える機会の提供」でも、特に高校で高い評価が得られた。 ・「進路情報の適切な発信」について、中学63%、高校79%が「良い」の評価となり、評価が分かれた。 ・「進路指導の細やかさ」では、「良い」の評価は中学で60%、高校で70%にとどまった。保護者から進路講演会の希望もあり、中高別々に開催したが、いずれも100名弱の参加にとどまり残念な結果となった。アンケートの自由記述では、熱心な指導をご評価いただく声も多くある一方で、進路に関する意欲を持たせる段階的な指導の不足や指導方法・内容が教員によって異なることのご指摘もあった。 ・引き続き、保護者への案内の時期・方法について検討を重ねるとともに、2020年からの大学入試制度の変更や学習指導要領の改訂など、我が国中等教育制度の大変革期を迎える中、本校の進路指導面での方針や考え方をより一層ご理解いただけるよう、情報発信の強化を進めたい。生徒には、学年ごとに進路指導講演会などを行い、学習意欲の向上に繋がる指導を計画的に実施しているが、より緻密でタイムリーな進路指導の方法の導入など、一人ひとりの能力を生かす進路指導を進める。	・学習システム導入から、模擬試験の成績の向上にも結びつき、保護者を含めた懇談日程のスケジュール化なども実現。成績データをもとに進路検索を行うシステムによる過去6年間の成績データの蓄積により、定量的な進路指導が可能となった。 ・日々の生徒指導においても、生徒一人ひとりの表情を見ながらのより細やかな指導を実践する中で、進路指導部の主導により、生徒の特性を生かせるよう、教科指導と進路指導を統合した体系的な指導を早期から推進する。 ・中学での進路意識を高めるために、奉獻会の皆様のご協力をいただき、キャリア教育を進め、自らの特性の発見のための一歩から、学習意欲となるための指導を推進する。 ・堺の土地柄を生かしたフィールドワークにより、地域学習を進めたい。
5	あいさつ指導・しつけ、礼儀、マナー指導の実践と生徒指導強化	生徒は挨拶が良くできている 命の大切さや社会のルール・マナーについて指導している 生徒は学校のルールやマナーを守っている 生徒指導面で家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている 生徒指導方針に十分理解し共感している 服装、頭髪、遅刻、持ち物等の生徒指導をしっかり行っている	・基本的な生活習慣を身につけることを第一として、一週間に一度全教員が上野芝駅から学校までの通学路での登校指導を本年から実施した。 ・地元の皆さんに愛される賢明の生徒、挨拶のできる礼儀正しい生徒を目指して指導を進めた結果、今年度は生徒指導上での指導数も半減、遅刻者数や欠席者数も激減した。しかし「遅刻ゼロの日」を達成することができなかったことは大いに検討すべき課題である。	・男女共学化以降、本校の生徒指導の姿勢について、生徒の登下校時の状況に関し近隣住民からよくご指導いただく。近隣住民に愛されてこそこの私学であるため、挨拶や制服の着こなし、身だしなみの点でもより一貫した指導の継続を心がける。 ・保護者の皆様にもご理解いただき、家庭での生活習慣の指導や家庭学習についても、保護者との連携が急務であり、挨拶や服装、時間を守るといった基本的な礼儀・マナーについて、日々の指導に地道に取り組む。 ・基本的な生活習慣の内面的な定着指導や登下校時の姿勢の指導など生徒たちによる生徒会活動を活性化したい。
6	生徒会活動の自主精神の高揚と、実践指導	クラブ活動の指導では助言を行い生徒を育てている 健康や安全に対する指導が積極的にされている クラブ活動は活発で楽しいと言っている 行事や取り組みなどの生徒会活動は活発である 生徒は学校行事や部活動に積極的に参加している クラブ活動・委員会活動に積極的に関わり生徒の状況を把握している	・クラブ活動は、全国大会出場や近畿大会優勝など好成績を収め、指導性に高い評価を頂いた。 ・「クラブ活動は活発で楽しい」の設問に関して、中学で73%、高校で75%が「良い」の評価であった。自由記述においても「意義ある充実した活動である」とのコメントを多くいただいている。	・クラブ活動の結果が出るようになったことの反面、教員による練習指導や引率時間が制約される事態が生じている。 ・生徒の意欲と教員の熱意がクラブ活動の原動力であるが、練習場所の制約などから学外への遠征も多くなるなど、クラブ活動に関する諸規定の見直しやクラブ活動費の徴収なども検討せざるをえない状況となっている。 ・生徒会活動の活性化のために、生徒の自主的な諸活動への年間計画を策定し、生徒の企画推進による生徒の中からあいさつ運動やボランティア・服装指導などを推進する。
7	学校行事の検討・見直しと構築	学校行事は内容が充実して生徒も満足している 宿泊行事（体験学習）は新しい発見や学びがあり有意義である	・今年度も多くの海外研修に取り組み、多くの成果を納めてきたことについては、保護者から直接良いご評価いただいている。 ・「体験学習などの宿泊行事」に対する評価でも、中学で86%、高校で83%が「良い」の評価で、例年通りの高い評価をいただき、今後への期待度がさらに高まっていると感じている。	・体験学習の体系化や教育的効果の向上への取り組みもあり、保護者からの評価は安定して高いものとなった。 ・引き続き体験学習を通じ、達成感や仲間意識の醸成を体得する成長から、人間的成長を促していくことに体験的指導をより充実したい。
8	募集活動の強化による定員確保と、レベルアップ	学習レベルのアップから模擬試験データ向上による大学進学の結果 有意義な学校生活と内面的なマナーと規律による生徒姿勢 「祈る・学ぶ・奉仕する」の校訓であるカトリック教育の理解と信頼による満足 他人への温かなやさしい思いやりあるところの指導	・生徒たちの日々の姿勢や表情、礼儀・マナーなどとともに、大学進学結果や学習の伸びなどによる「見える学力」が、募集活動の一つと言われる。 ・幸いにして、保護者の本校教育への理解や穏やかな生徒に恵まれたこの時期に、より大きな成果を確実に出し、学費無償化のメリットも活用した、募集のレベルアップと定員確保の安定化を図っていく必要がある。良い生徒をより伸ばすために、よりレベルの高い教科指導力が緊急の責務である。	・少しずつレベルアップにつながる募集を進める。 ・方策として、計画的な塾・中学訪問による関係の構築と教育の信頼につながる大学合格実績の更なる向上を目指す。 ・生徒報告シートによる実情を把握のもと、定期的に報告できる細やかな広報を展開し、広く認知される活動を計画・推進していく。

IV 学校関係者評価の結果の報告書

◆外部評価委員

- ・小上 廣之
- ・嶋田 豪洋
- ・辻井 宏之
- ・鶴坂 貴恵
- ・藤木 利典

◆2014年度学校関係者評価の概要

	開催日	議事内容
第1回	5月10日(土)	2013年度学校評価総括 2013年度ホームページ掲載について 2014年度の重点的取組について
第2回	8月30日(土)	2013年度ホームページ掲載内容の検証 2014年度学校評価について 第三者評価について
第3回	12月6日(土)	60周年記念式典について 2014年度の重点的取組の達成状況について 2014年度アンケートの実施について
第4回	2月21日(土)	2014年度アンケート結果の分析と改善点の抽出 2015年度の重点的取組

2014年度学校評価委員会において、学院が行った自己評価は、適正かつ建設的なものであると判断する。なぜなら、学院は年初に重点目標を策定し、その目標を達成する為の年間計画に従って、様々な教育活動を実施している。そして、教育活動の成果を「児童・生徒アンケート」・「保護者アンケート」・「教職員アンケート」を通じてチェックし、その中から改善点を抽出して次年度目標を設定し、新たな改善に取り組んでいる。こうした一連の学校評価システムは、PDCAサイクルに基づいた極めて理論的なものであり、学院による明確な改革の意思を表明するものに他ならないからである。

当然ながら、学校評価を実施する中で様々な課題も見つかっているが、それらについては以下の報告書に集約し、学院に提出する事で改善されるものと期待している。

◆評価すべき点と問題点及び改善点

	評価される点	問題点及び改善点
学院全体	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使った学校評価アンケートの実施計画は、時代に合った合理的な方法であると評価できる。 ・アンケート結果のみでは実情が分かり辛いと考えていたが、60周年記念式典に参加させて頂いた事で、学院の素晴らしい教育を体感する事が出来た。学校関係者として誇らしく感じられた。 ・膨大な時間と労力を掛け、教育改善の為に情報収集をされている事に敬意を表す。この大変貴重な資料を是非有効に活用して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の一層の向上、特に進学実績、内部進学率の向上など、更なる成果がほしい。 ・報告様式の統一によって、HP上で学院の一体感を表現すべき。 ・長文は読みづらい。視覚的に見やすい報告書に改めるべき。子どもと教員、保護者のアンケートを対比するなどの工夫も必要である。 ・記念式典に参加し、賢明学院の教育の素晴らしさを実感したが、それが外部に発信できていない。情報発信に注力すべき。 ・保護者の皆様にカトリック教育を通じた「奉仕の心」に対する理解を更に深めて頂く努力が必要である。
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育プログラムに対する保護者の評価が非常に高い。今後に期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの更新が遅いとの感想が気になる。今日におけるHPの重要性を鑑み、早急に対応して頂きたい。 ・問題点に対する具体的対策案を明確にすべき。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・運動場の人工芝化など、子どもや保護者の要望に速やかに対応する姿勢は評価できる。 ・高学年になると、宗教教育に馴染みにくい子どもが増える傾向にある。それを真摯に受け止め、丁寧な姿勢で一生懸命改革しようとする学校の姿勢は高く評価できる。ただ、肯定的でない意見が多少なりとも増えるのは、子どものこころの成長過程と批判的精神の芽生えに起因するところが大きく、必要以上にネガティブに捉える必要はない。教職員各位は自信を持って日々の教育に臨んで頂きたい。また、賢明学院に対する評価と期待は以前と変わらず高いことを認識し、賢明学院の教職員である事に誇りをもって教育活動に邁進して頂きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部保護者からグラウンドの安全性や1クラスあたりの人数に対する意見が出されている。アンケートを実施している以上、こうした少数意見も十分検討し対応して頂きたい。 ・小学校が取り組んでいる、「読書活動の推進」について、今後さらに力を入れて頂きたい。
中高	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動や大学進学での実績が年々向上している。今後も学院の教育改革の成果に期待したい。 ・家庭学習や提出物の提出状況に改善が見られる事は素晴らしい変化である。今後は、なぜそのような変化が起こったのかを研究し、具体的事例を教職員と保護者が共有する事で、変化に継続性を持たせる事が重要だろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学は高校の特色を重視する。心の教育はもちろん、大学入試対策の為に、賢明学院の特色を鮮明にする必要がある。 ・大学入試制度の改革が間近に迫っている。学院として早急な対応を望む。 ・生徒・保護者の一部に、進路について一層の情報提供等を期待する声が見られた。生徒達の自立心の表れでもあり、学校にとっての改善点でもあろう。3年生はもちろん、その他の学年にあっても、数値の改善努力を怠らないようにして頂きたい。